

種一

常々往來する

常々柳舟のよきの

玉富女並術の三種

湖の行舟の舟人

作舟の舟人も富女の

見方の表は舟人

舟後多々の人が注

三島路の舟人

舟の舟人も偶々



わらへるるも偶々

の作が此名文は若輩

の如様とお和の様子

こそまゝとら欣何と

且或激るふ伝は

と甚くふ十分る作

をかくまゝとは推賞と

の事と之惟ふ事

結論の一項の如き

殊々難を味讀は

事とらむる更に精

進ぶるのりか評

... 料

進ぶるのりか評

に解ゆる高士を捕

き出 だく痛

或は 其

種光種形反

とるを あり敵は操

扱あそ せり名 扱

白月名。川合玉壺

本間久雄様

本間久雄様

送著書所迄

川合玉堂

六月十九日

小石川區雜司谷所方口也

本間久雄様

親心



川合玉堂年東

子嗣久好
齋

本間文庫
文庫 14
C 68

